

教 員 個 人 調 書

履 歴 書			
フリガナ	フリガナ (通称名)	性別	写 真
氏 名	○田 ○夫 (通称名)		
生年月日 (年齢)	1979年2月19日 (満41歳)		
現住所	〒000-0000 大阪府大東市 3丁目1番1号		
連絡先	電話	e-mail	
学 歴			
年 月	事 項		
1997年4月	○○大学 ○○学部 ○○学科 入学		
2001年3月	○○大学 ○○学部 ○○学科 卒業		
2001年4月	○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻 博士前期課程 入学		
2003年3月	○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻 博士前期課程 修了		
2003年4月	○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻 博士後期課程 入学		
2006年3月	○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻 博士後期課程 単位取得後退学		
2007年3月	○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻 博士後期課程 博士 (○○) 学位取得 (第○○号) 論文題目「○○○○による○○○○に関する研究」		
職 歴			
年 月	事 項		
2006年4月	○○大学 ○○学部 ○○学科 助教 (2010年3月まで)		
2010年4月	△△大学 □□学部 □□学科 准教授 (現在に至る)		
学 会 および 社 会 に お け る 活 動 等			
現在所属している学会	日本○○学会、日本□□学会、△△△学会		
年 月	事 項		
2003年4月	日本○○学会会員 (現在に至る)		
2010年10月	全国○○協議会会員 (2019年3月まで)		
2015年4月		
賞 罰			
年 月	事 項		
2003年3月	日本○○学会 ◇◇◇賞 受賞		
2005年3月		
2010年10月		
現 在 の 職 務 の 状 況			
勤務先	職名	学部等または所属部局の名称	勤務状況
※※大学	教授	○○学部□□学科	××概論、□□特別演習、□□特別講義
2020年5月15日			上記のとおり相違ありません。
氏名			○田 ○夫

教 育 研 究 業 績 書

年 月 日

氏名

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項

事 項	年 月	概 要
1 教育方法の実践例 ・ 授業アンケート結果による改善等 ・ 授業実践の特色や指導上の工夫、指導方針等	2015年4月	
2 作成した教科書、教材 ・ ○○講義における教材	2019年4月	学生用にプリントして配布
3 教育上の能力に関する大学等の評価 ・ 授業評価等の記載 ・ 自己点検・評価での評価結果		
4 実務の経験を有する者についての特記事項 ・ 公開講座・市民講座での内容等		
5 その他 ・ ○○教育委員会委員		

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項

事 項	年 月	概 要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 ・ 各種審議会・行政委員会等の委員 ・ 留学等 ・ ○○との共同研究 ・ 研究開発等の担当実績		
4 その他 ・ 実務家としての評価等		

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単独・共同の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌等または発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 ○○工学概論	単独	2008年3月	大阪産業大学発行所	・・・について・・・を対象に発行したものである。わかりやすく全般的に解説した入門書である。
2 ○○工学概論 2	共同 (3人)	2010年10月	大阪産業大学発行所	・・・について・・・を対象に、わかりやすく解説した入門書である。総著者数○人、全○章○○ページ。本人担当箇所：第2章「…」○○ほか計3人の共著 ○～○ページ、第4章「…」単著、○～○ページ
(学術論文) 1 ○○についての研究	共同 (3人)	2005年11月	大阪産業大学論集第50巻 第34号 p34～46	・・・について・・・実験して・・・を確認することができた。 産大太郎、段大五郎、産大花子 ○○部分の執筆を担当
[その他] 1 ・・・についての一考察	単独	2006年6月	第18回○○学会 (大阪)	・・・についてまとめたものである。
2 学会報告 ・・・についての提案	単独	2011年12月	○○○報告書	・・・についての研究し、その基礎を提案した。

履歴書の記入について

1. 年号は、すべて西暦で記入。

2. 「氏名」

旧姓等の通称名を使用する場合は（ ）書きで併記。

3. 「生年月日（年齢）」

記載時点の満年齢を記入。

4. 「学歴」

① 大学もしくは、高等専門学校またはこれらと同等以上と認められる学校卒業以上の学歴（大学の別科および専攻科を含む。）を有する場合、すべての学歴（授与された学位および称号を含む。）を記入し、それ以外の場合には、最終学歴・（卒業・修了日）を記入。なお、博士課程において所定の単位を取得し博士の学位を授与されないまま退学した場合には、「博士課程単位取得後退学」と記入。

② 学位は、付記された専攻分野の名称・学位論文の題目・学位授与番号（博士）を併記。

③ 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、公認会計士、税理士、弁護士、教員等の資格を記入し、登録番号等も併記。外国における資格にあつては正確に記入するとともに、その資格の内容を日本語で併記。

④ 学生として外国の大学や研究機関等への留学歴を記入。

⑤ 外国の大学等の経歴を記載する場合は、大学等の名称や学位等をアルファベットとカタカナで併記し、国名を記載。

5. 「職歴」

① 以下の内容を記載

- ・ すべての職歴（自営業、主婦、フリーランス等を含む。）と、その従事終了年月日
- ・ 職名・職位（部長級、課長級等）、職位が無い場合は「役職なし」
- ・ 就労形態（正職員、嘱託等）
- ・ 研究職や教育職の場合は、任期付の有無、常勤・非常勤の区分

② 学位は、付記された専攻分野の名称・学位論文の題目・学位授与番号（博士）を併記。

③ 研究者として、外国の大学や研究機関等への留学歴を記入。

④ 過去における教員組織審査において教員の資格があると認められた場合には、当該審査に係る時期、大学の名称、職位および担当授業科目の名称（大学院にあつては、判定結果を含む。）を記入。
また、過去における高等専門学校の教員資格の認定を受けた場合には、当該認定に係る時期、高等専門学校の名称、職位および担当授業科目の名称を記入。

⑤ 大学教員の職歴については、主な担当授業科目を併記。

⑥ 外国での職歴を記載する場合は、企業名等をアルファベットとカタカナで併記し、国名を記載。

6. 「学会および社会における活動等」

① 「現在所属している学会」には、記載時現在、所属する学会の名称を記入。

② 学会および社会における活動等のうち、専攻や研究分野等に関連する事項を記入。

③ 教育研究上の業績を有する場合、その内容を具体的に記入。

7. 「賞罰」

- ①学会や出版社からの表彰や職務上の表彰を記入。
- ②研究不正、研究費の不正受給、セクシュアルハラスメント、アカデミックハラスメントなどに関わる懲戒処分を記入。ただし、嚴重注意など処分に至らないものは記載不要。

8. 「現在の職務の状況」

- ① 記載時現在における職務の状況を記入。
- ② 「職名」には、大学等の教員の場合は、「教授」「准教授」等の職位を記入。それ以外の職に従事している場合は、「取締役」「理事」等の職名、職名がない場合は「-」を記入。
- ③ 「勤務状況」には、大学等の教員の場合は、担当授業科目を記入。それ以外の職に従事している場合は、職務の内容を簡潔に記入。
- ④ 採用までに現職を定年、退職予定の場合（早期退職制度を含む）または、前職で定年退職（早期退職制度を含む）の場合は、その旨を記入。

教育研究業績書の記入について

1. この書類は、教員の担当授業科目に関連する教育上の能力に関する事項、職務上の実績に関する事項および主要な著書、学術論文等の業績について古いものから新しいものの順に作成してください。
2. 「氏名」
旧姓等の通称名を使用する場合は（ ）書きで併記。
3. 「研究分野」および「研究内容のキーワード」
「研究分野」には、科学研究費助成事業 審査区分表（総表）を用いて、研究分野の主なものを3つ以内で記入。「研究内容のキーワード」には、研究内容を表すキーワードを5つ以内で記入。なお、総表に該当項目がない場合は、適宜記入。
4. 「教育上の能力に関する事項」および「職務上の実績に関する事項」
 - ① 「事項」には、各区分に該当する担当予定授業科目に関連する教育上の能力および職務上の実績に関する事項を過去から現在まで簡潔に記入。
 - ② 「年月」には、該当事項に係る実施時期、発表時期、従事期間等を記入。
 - ③ 「概要」には、該当事項に係る内容の概要、当該活動における地位や役割、成果を記入。
 - ④ 「教育上の能力に関する事項」
 - ア 「1 教育方法の実践例」
 - ・ 実施している授業方法の特色、指導上の工夫、指導方針等
 - ・ 授業外における学習を促進する取り組み、授業内容のインターネット上での公開等
 - ・ 大学以外の教育機関における教育経験等
 - イ 「2 作成した教科書、教材」
 - ・ 授業や研修指導等で使用する著書、教材等
 - ウ 「3 教育上の能力に関する大学等の評価」
 - ・ 各大学における自己点検・評価での評価結果等
 - ・ 学生による授業評価、教員による相互評価等の結果等

エ「4 実務の経験を有する者についての特記事項」

- ・ 大学から受け入れた実習生等に対する指導等
- ・ 大学の公開講座や社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等
- ・ 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の専門的な実務に関する教育・研修等

オ「5 その他」

- ・ 大学教育に関する団体等における活動、教育実績に対する表彰等
- ・ 国家試験問題の作成等

⑤「職務上の実績に関する事項」

ア「1 資格、免許」※自動車運転免許は除く

- ・ 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、公認会計士、税理士、弁護士、教員等の資格で担当予定授業科目に関連するもの

イ「2 特許等」

- ・ 特許、実用新案等で授業・研究分野に関連するもの

ウ「3 実務の経験を有する者についての特記事項」

- ・ 共同研究等
- ・ 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の担当実績等
- ・ 各種審議会・行政委員会、各種ADR 等の委員等
- ・ 行政機関における調査官等
- ・ 研究会・ワークショップ等での報告や症例発表等
- ・ 調査研究、留学、海外事情調査等

エ「4 その他」

- ・ 職能団体等からの実務家としての卓越性に関する評価・推薦等
- ・ 論文の引用実績等

5. 「研究業績等に関する事項」

① 書類の作成時において未発表のものは記入不可。

②「著書、学術論文等の名称」

ア 研究等に関連する主要な業績を、「(著書)」、「(学術論文)」、「(その他)」の項目に適当に区分し、各業績を発表順に通し番号を付して記入。

イ 著書については、書名を記入。共同著書や第三者が編集した書籍に寄稿した場合にも本項には書名を記入し、担当部分の説明は「概要」の項に記入。

ウ 学術論文については、学術雑誌、学会機関紙、研究報告、紀要等に学術論文として発表した題名を記入。学位論文については、その旨を明記。併せて、査読あり・査読なしを記入。

エ その他については、総説、学会抄録、依頼原稿等にあつては当該記事のタイトルを、報告発表、座談会、討論等にあつては当該テーマを記入。

③「単独・共同」には、当該著書等に記載された著作者が単独である場合には「単独」、著作者が複数いる場合には、監修、編集、編著、共著、部分執筆等の関わり方に寄らず「共同」と記入し、その人数を併記。

④「発行または発表の年月」には、当該著書等の発行または発表の年月を記入。

⑤「発行所、発表雑誌等または発表学会等の名称」

ア 著書については、発行所を記入。

イ 学術論文等については、発表雑誌等の名称、巻・号、掲載ページ等を明記。

ウ 報告発表等の場合には、学会大会名、開催場所等を明記。

⑥「概要」

ア 当該著書等の概要を 200 字程度で記入。

イ 当該著書等が共同の場合には、本人の担当部分の章、節、題名、掲載ページを記入するとともに、本人の氏名（下線を付すこと。）を含め、著作者全員の氏名（多数にわたる場合は主要な共同者の氏名と著者総数）を当該著書等に記載された順に記入。共同では、本人が担当した章や節等が共同の場合には、本人の貢献度が分かるようにその章等の著者数などを記入。また、本人の担当部分の抽出に困難があるときは、その理由を記入。

ウ 研究業績等が他の研究業績等と、ほぼ同じ場合（例えば、学会報告後に同内容を学術論文として発表したような場合）には、本説明 5. ②アに示す通し番号に従って、「学術論文 3 に同じ」など記入。

以上

2026.06ver